

令和元年度 須賀川市立第三中学校現職教育

本校の学習における共通実践事項

1 これまでの取り組みの成果

本校の大きな課題の1つとして不登校生徒が多いことが挙げられました。これは、各学年に人間関係がうまく築けず孤立あるいはそれに近い状況になっている生徒がかなりの数いることが不登校生徒の多さに大きくつながっていると考えました。そこで、学校生活の中で最も大きな割合を占める授業の中で自分の居場所、自己存在感を感じることができれば、少しずつではあるが本校の課題の解決に向かうのではないかと考え、平成24年度より「協同的な学び」を取り入れた授業に取り組んできました。

その結果、自然に級友に聞きあいながら、あきらめることなく課題に取り組む学習集団となってきました。生徒の振り返りやアンケートの結果からも、「もっと取り入れてほしい」という声が多くみられ、生徒の中にも「**協同的な学びを取り入れた授業**」＝「**三中の学び**」「**三中の魅力**」という意識が定着してきました。

また、本校の教育目標は『社会に目を開き「なりたい自分」の姿を描き実現しようとする人』であり、めざす生徒像は

○自ら考え、表現できる人 ○仲間とともに高め合える人 ○心身ともにたくましい人 です。

この目指す生徒像に近づけるためにも、全職員が共通理解のもとで以下のような取り組みを行うことで、授業の改善を図っていきたいと思います。

昨年度から研究主題のほか副主題を設定、より具体的に深い実践となるよう進めています。

2 「協同的な学び」を取り入れた授業の実践

協同的な学び…子どもたちが対話（子ども同士、あるいは教師と子どもの聴きあう関係を基盤として成り立ち、活発に話すことだけでなく、ボソボソとしたつぶやきを聴きあうようなコミュニケーション）によって学びあうことで、男女混合の4人グループ等で、基盤となる知識や考え方を確認し共有したり、一人では難しそうな課題に対して他者の援助を受けながら解決したりするような学び

☆今年度実践事項 ～学び合いが深まる「ジャンプの課題」の工夫～
「ジャンプの課題」の設定・工夫への挑戦
「自分の考えを深める」場の確保・・・自己追求のための支え合いの場

①個人の活動の場を設ける（一人ひとりの「学び」の保障）

「読む」「観察する」「確かめる」「操作的な活動をする」「考えをまとめる」などの対象とじっくり関わり、自分の考えを持つ活動

②「協力的な学び」の場（小グループでの活動）を設ける

4人または3人一組での話し合い活動や2人でのペア学習や共同作業の中で、多様な考えを出し合い、すりあわせることでお互いの考え方の違いや良さに気づく活動

③「自分の考えを深める」場を設ける

他者の考えを集中して聴き、それに対する自分の考えを関連させたり、比較させたりしながら発表し、自分の考えを補強したり発展させる。考えをまとめ「自分の言葉で書く」活動

3 実践の検証

全ての教師が上記のような実践を行い、学期に1回の研究授業と、月に1回の学年授業参観を設け、実践の成果と課題を検証していく。

4 教師側が心がけたいこと

(1) 基本的な姿勢

- ◎生徒一人ひとりに、学びの主体者である意識と安心感を持たせ、「分からない」という意思表示をしていいことを理解させる。
- ◎教師の役割は、『支援し合う子どもたち』という集団になるのを支援することと、「生徒一人ひとりの学びを、見て、中身をとらえ、言葉をかける（意味づける）こと」。
- ◎「自分だけ分かればそれでいい」という考えではなく、仲間と一緒に達成感や成就感を感じることを目指すよう指導する。
- ◎特に協同的な学びの場面では、教師はしゃべりすぎない。
- 生徒の「つぶやき」「ささやき」を拾い、授業の展開に結びつける。
- 生徒の発言を他の意見とつなげたり関連づけたりしながら、「意味づけ」「価値づけ」をする。

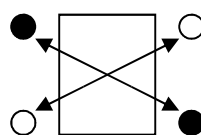
(2) 協同的な学びについて

◎構成は4人（男女2名ずつ）を基本とする。

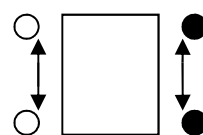
（数が合わない場合は5人のグループはつくらずに、3人のグループをつくって調整する。題材や活動の内容によっては、2人ペアやチームなど目的に応じて変えても構わない。）

◎各学級の席順を利用する。男女を市松模様の配置とする。

（どの生徒との組み合わせでもきちんと活動する意識を全教科で持たせていく。グループの誰かがリーダー的になる必要はあるが、それは意図的に配置することではない。）



視線・会話が交わり、同性同士2人の会話に他の生徒が関わりやすい。



同性2人だけの会話になりやすく、他の生徒が関わりにくい。

- 活動中、教師は停滞しているグループや孤立している生徒がいるグループがないか観察し、そのグループに教師が意図的に関わり、生徒同士のパイプ役になる。
- 優秀な生徒が一人で突っ走りすぎて、一方的に自分の意見を押しつけている場合は、教師が関わり他の生徒の意見を引き出す。
- 教師に質問する前にグループの中で聞いて解決を図るよう助言する。
- グループ内で考えを1つにまとめる必要はない。意見交換しながら自分の考えに対して理解を深めることが大切である。
- その活動において、生徒にどんな活動をさせるべきかを教師側がしっかりと考えておくことが重要である。
- 欠席者の机もつけて学習する。
- 3人グループの場合、どの生徒も黒板に背を向ける座り方にならないようにする。

(3) コの字型座席配列について

◎普通教室での学級全体での学習の際、できる限りコの字型の座席配列を使う。

(教室が、「自分の意見が聴いてもらえる」という安心感があり、意見や感嘆・賞賛・同意などの声が自然にでるような雰囲気となり、全体の間でも対話が成立しやすくするため)

○黒板をしっかりと見せたいときは、書くのを止め体ごと黒板の方を見る習慣をつけさせる。また、板書内容の精選や「対話による学びあい」を意識した学習過程の工夫を意識する。

○机と机の間が狭くなるので、個人での活動の際は、「コの字型」ではなく「4人グループ」の方が机間指導しやすい。

